

下水道事業

社会資本総合整備計画の 事後評価について

- ①下水道管の整備
- ②し尿受入施設建設

上下水道部 下水道課

はじめに（趣旨）

- ▶ 下水道事業は、国の交付金を活用し、計画に基づき実施している。

交付金の名称 : 社会資本整備総合交付金

計画の名称 : 社会資本総合整備計画

- ▶ 計画期間の完了時に事後評価を実施。

評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、

学識経験者等の第三者の意見を求めることがなっている。

交付金事業の流れ



交付金事業の流れ

①下水道管の整備



②し尿受入施設建設



事後評価 ①下水管の整備

■ 計画の目標

下水道の区域内における下水道の未普及地域の早期解消により、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る。

■ 成果目標（定量的指標）

下水道が利用可能な区域の割合を
80.616% (R3当初 : 1,812.42ha) から

80.665% (R6末 : 1,813.52ha) に増加させる。
(参考)

下水道が利用可能な区域の割合 (%)

= 下水道が利用可能な区域面積 (ha) ÷ 下水道の計画区域の面積 (ha)

事後評価 ①下水管の整備

■ 計画期間内 (R3～R6) における進捗状況

| | 下水管の整備延長 | 場所 | 事業費 (百万円) | 下水道が利用 可能になった 面積(ha) |
|----|---------------|--------|--------------|----------------------------|
| R3 | 管径150mm 52.0m | 東大通三丁目 | 6 | 0.3ha |
| R4 | 管径150mm 7.0m | 東二丁目 | 5 | 0.4ha |
| | 管径200mm 24.0m | | | |
| R5 | 管径150mm 62.0m | 花沢町一丁目 | 8 | 0.3ha |
| R6 | 管径150mm 52.8m | 万世町金谷 | 10 | 0.4ha |
| 合計 | 197.8m | | 29 | 1.4ha |

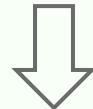
■ 事業効果の発現状況

下水管が未普及の地域に整備されることにより、今後、下水道への接続が進み、生活環境の改善と公共用水域の水質保全が期待される。

事後評価 ①下水管の整備

■ 成果目標（定量的指標）

下水道が利用可能な区域の割合を
80.616% (R3当初 : 1,812.42ha) から
80.665% (R6末 : 1,813.52ha) に増加させる。



■ 結果（最終目標値の実現状況）

下水道が利用可能な区域の割合が
80.616% (R3当初 : 1,812.42ha) から
80.678% (R6末 : 1,813.82ha) に増加。

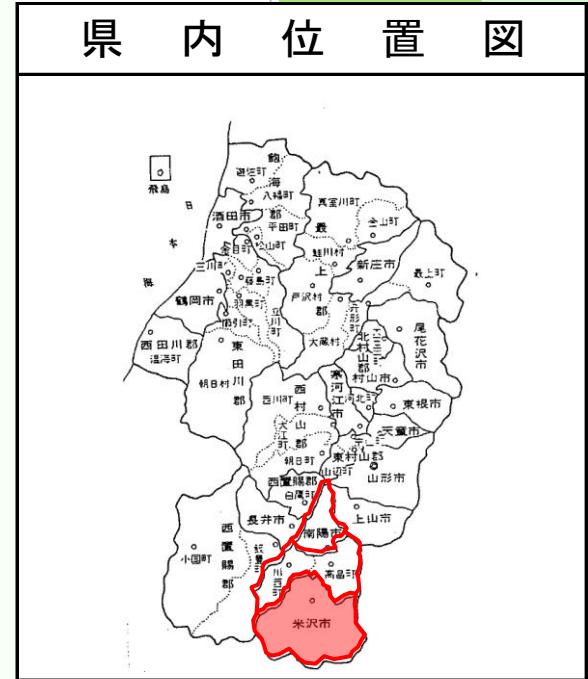
■ 今後の方針について

現在は、私道への下水管の整備が主であることから、下水管の整備要望があった箇所を中心に未普及地域の早期解消に向け取り組んでいく。

②し尿受入施設建設

事業の背景・目的

本市には、置賜広域行政事務組合が管理するし尿処理施設である米沢クリーンセンターがあり、また、南陽市・高畠町・川西町のし尿処理施設である南陽クリーンセンターがある。両施設とも供用開始後30年以上経過しており、施設の老朽化や、搬入量の減少もみられることから、し尿処理施設を廃止し、本市が管理する下水処理場である米沢浄水管理センターに、新たにし尿受入施設を建設することにより、効率的なし尿等の処理を行うこととした。



し尿受入施設

事後評価 ②し尿受入施設建設

■ 計画の目標

置賜広域行政事務組合が米沢クリーンセンターで行っている米沢市のし尿処理と、南陽クリーンセンターで行っている南陽市、高畠町、川西町のし尿処理を米沢浄水管理センターで受け入れて処理することで維持管理を集約し合理化を図る。

■ 成果目標（定量的指標）

評価時点における施設の年間維持管理費を約70%削減する。

（参考）

年間維持管理費の削減率（%）

= (統廃合後の年間維持管理費 - 統廃合前の年間維持管理費)

÷ (統廃合前の年間維持管理費)

事後評価 ②し尿受入施設建設

■ 計画期間内（R3～R6）における進捗状況

| | 事業内容 | 事業費 (百万円) |
|---------------------|--------------------|--------------|
| 令和3年度 | 下水道の計画変更 | 5 |
| 令和3年度 ～ 令和6年度 | 基本計画策定 し尿受入施設建設 | 1,411 |
| 合計 | | 1,416 |

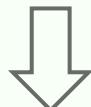
■ 事業効果の発現状況

し尿受入施設が令和7年4月から供用を開始したことから
汚水処理施設の集約化・広域化により、今後、維持管理費の
削減が期待される。

事後評価 ②し尿受入施設建設

■ 成果目標（定量的指標）

評価時点における施設の年間維持管理費を約70%削減する。



■ 結果（最終目標値の実現状況）

年間維持管理費が約71%削減される見込み。

■ 今後の方針について

し尿受入施設が完成し、下水処理場である米沢浄水管理センターの一部として稼働していることから、管理運営を委託している置賜広域行政事務組合と協力し、維持管理を行っていく。